

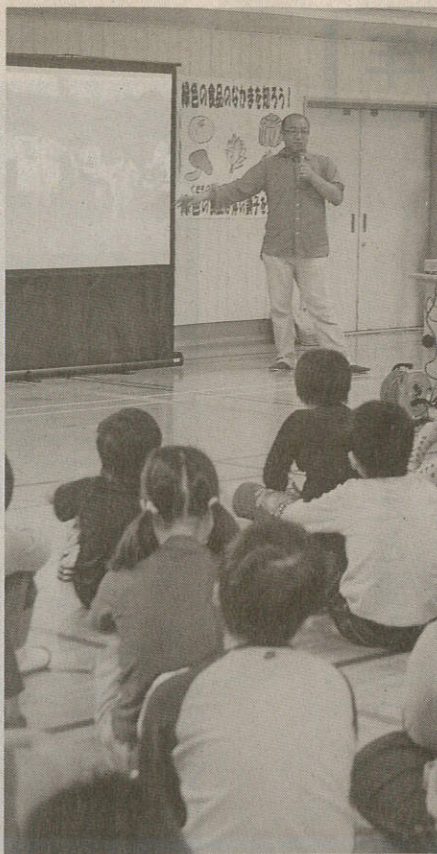
米作り先生ありがとう

山形の農家、出前授業

中野区の農家、出前授業 東中野小 児童が思い出発表

東京都中野区の区立東中野小学校の児童が24日、米どころ東北の稲作農家から直伝の「農の授業」を受けた。同校はバケツやプランターを使って「コシヒカリ」を栽培しており、いわばその集大成。今年の作業や成果を振り返る発表会を通じて、生きた農業の一端にふれた。

この日訪れたのは、山形県真室川町の稲作農家・高橋剛さん(62)。同校は区教育委員会が食育を重視する方針を打ち出した。高橋さんは今年、高橋さんの教えを受けて、約1升の米を収穫した。高橋さんは苗の植え付けや水管理、鳥害防除などのたびに山形



発表会では山形県から「農家先生」も駆けつけ、農の授業をした(24日、東京都中野区の東中野小学校で)

県から通って指導した。体育館で開いた発表会で児童は農作業の様子や苦労、楽しさなどを報告した。高橋さんは同校での農業体験に「子どもたちの純粋な気持ち稲に伝わった」と満足そうな笑顔を見せ、「今後もうした教育活動に一層力を入れたい」と話している。

同校の児童数は125人。区内の児童数は減少傾向で、区は児童が減った29校を18校に統合する計画を立てている。同校は今年度で統合されることになっており、思い出深い農の体験授業となった。発表会には保護者も参加し、子どもたちの成長を見守った。

日本農業新聞

平成20年10月25日



山形産新米でお祝い
区立東中野小学校で二十四日、全校児童百二十人と保護者ら約百人が体育館に集まり、山形県産の新米でおにぎりをにぎり、昔ながらの朝ご飯を食べ



るイベントがあった。写真。同校では、山形県真室川町の農業生産者高橋剛さん(62)の協力を得ながら、児童らが校庭のプランターで野菜や稲を栽培。月一回は高橋さんが農業指導に訪れ、児童と一緒に作業をしている。

この日は高橋さんが丹精して作った新米を握供。ご飯のおいしさを知らずにはいられない。高橋さんは「おにぎりのほか、イワシの丸干し、具だくさんのみそ汁、キュウリとキヤベツの塩もみという昔ながらの献立となった。三年生の実井貴哉君(6)は「楽しかった」と笑顔だった。

← 東京新聞
平成20年10月25日 朝刊